

奈良のむぎしばやし

文・山崎 しげ子 随筆家

14



奈良市高畑町から柳生へ通じる旧柳生街道。柳生は、かつて天下に名をはせた剣豪、柳生一族の里である。

柳生家中興の祖といわれる石舟斎宗敵。戦国時代に辛酸をなめた彼は、武士の刀は抜かないことを理想とし、「柳生新陰流」を創始した。

宗敵の五男宗矩。沢庵和尚に禅を学び、父の「柳生新陰流」を広めて、徳川家二代將軍秀忠

三代家光の兵法師範となった。そして宗矩の長男、十兵衛三敵の時代。門弟は全国に一人を超えたといわれる。

その昔、宗敵が剣の修行に励んでいたときのこと。毎夜、戸岩谷から不気味な音や掛け声が聞こえてきた。村人たちは「宗敵様が山奥の天狗を相手に腕を磨いておられる」と噂しあった。ある夜、宗敵は天狗と戦い、

天狗の一刀石

「えいっ」と一刀のもとに斬り捨てたと思ったが、実は天狗の姿はなく、そばにあつた大石がまつぶたつに割れていたというのだ。その巨岩は「一刀石」と呼ばれ、今も天乃石立神社の南五〇メートルほどのとこに残る。

柳生の里へは、旧柳生街道を辿って入りたいが、近鉄奈良駅から徒歩で約二十一キロ。バスなら国道三六九号線を走って約



柳生宗矩は1万石余の柳生藩主として江戸に常住し、故郷の柳生に陣屋を置いた。今は史跡公園。建物跡に盛り土をし、石垣で囲っている。約300本の桜が見事。



戸岩谷にある約7メートル四方の巨岩。柳生宗敵が修行中、天狗を一刀のもとに斬り捨てたと思つたが、刀は近くの巨石を二つに割っていたとの伝承をもつ。

柳生の里へは... 奈良交通バスで「柳生」下車。近鉄またはJR奈良駅より約50分。天乃石立神社へはバス停から約1.2km。旧柳生藩陣屋跡へは約0.8km。



徳川三百年の泰平を支えた柳生家の人々。今、柳生の里は、柔らかな光と風につつまれ、のどかな春を迎えようとしている。

豪壮な石垣の旧柳生藩家老屋敷、旧柳生藩陣屋跡などの史跡が点在する。周囲を緑のおだやかな山並みが囲み、中央を今川が流れる。田園風景が広がる中、静かでゆったりとした時間が過ぎていく。

五〇分で着く。柳生バス停を南へ、古楓橋を渡り、霊源坂へ。石敷きの坂道は桜や楓に彩られ、風情に富む。坂を上り切った高台にある芳徳寺。宗矩が父宗敵の菩提を弔うため、寛永十五年（一六三八）に建てた。柳生家代々の菩提所。山門前の広場から眼下に柳生の里が一望できる。